

医療・介護 改革の主要たち

組み。今後は提携医療機関をさらに増やす計画だ。京都府内の医療機関を光ファイバーケーブルなどのネットワークで結び、カルテデータを共有する地域医療連携サービスの試みが始まったのは二〇〇六年四月。一年以上を経て七月に「まいこネット」は患者のカルテ情報などを共有するシステムの運用にこぎ着けた。第一弾として、京大病院の患者を対象にサービスを始めた。

検査結果 ネットで閲覧

京都府内の医療機関を光ファイバーケーブルなどのネットワークで結び、カルテデータを共有する地域医療連携サービスの試みが始まったのは二〇〇六年四月。一年以上を経て七月に「まいこネット」は患者のカルテ情報などを共有するシステムの運用にこぎ着けた。第一弾として、京大病院の患者を対象にサービスを開始した。健康情報口座を開設する。発行される口座番号を記したカードを京大病院の受付に診療カードなど、生活習慣の改善など

次回診察日まで待たなければならぬが、まいこネット利用者はいち早く閲覧することが可能で、生活習慣の改善などに生かすこともできる。患者が京大病院以外の医師を主治医として登録すれば、その医師もデータへのアクセス権を取得できる。掛かり付けの病院で大学病院で済ませたと同じ検査をもう一度

京都大学や京都府立医科大学などの医師で作る特定非営利活動法人(NPO法人)、京都地域連携医療推進協議会(理事長・吉原博幸京大教授)が整備した医療情報共有システム「まいこネット」に、京大医学部付属病院がシステムを接続、患者向けの運用が始まった。患者が京大病院で受けた検査結果などをインターネット上で閲覧できる仕

どと共に提示、医療データの医療情報を更新する。通常、患者が検査結果を確認できるのは

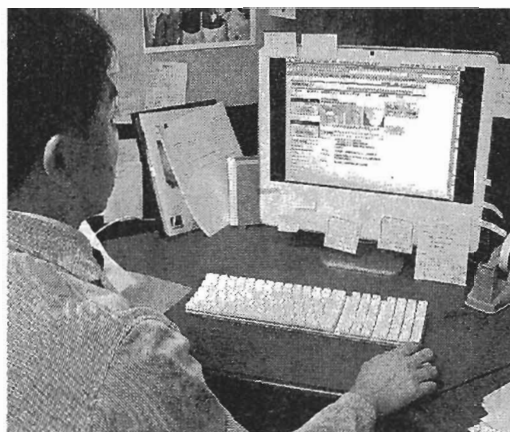


吉原博幸理事長

《組織概要》

- ▽所在地 京都市上京区西三木本木通荒神口下る上生洲町197-1 青蓮会館内
- ▽電話 075・751・3066
- ▽主な活動 医療情報を共有するためのシステムの整備

京都地域連携医療推進協議会(京都府)



患者が自身の医療情報をネットで閲覧できるシステムの運用が7月から京大病院を対象に始まった

「スーパー・ドルフィン」を介し、東京都や宮崎県内などの医療データセンターと接続している。今後、全国各地でシステム整備が進めば、県境をまたいだ医療データの自由な連携も可能になり、引越先でも継続的に医療サービスを受けられるようになる。吉原理事長は「勤め先と居住地の所在都道府県が異なる人にとってもこの仕組みで飛躍的に利便性が向上する」と話す。だが、まいこネットに接続している病院は今のところ京大病院のみ。吉原理事長も「最大の課題」と指摘するように、データ連携する病院の開拓は急務だ。一般患者向けの運用が始まった京大病院で利用者が増やし、その成功例をバネに提携医療機関を拡大していく狙いだ。京大病院には多くの大規模更新の際に、データを送る仕組みを作っても壊れるよう訴えていく」(同) 考えだ。(京都支社 中村元)

2007年7月6日(金)
日本経済産業新聞